

| 科目名 Course Name | | 開講年次 | 開講学期 | 曜日・時限 |
|--|--|-----------------|-------------------|-----------------------|
| 介護職員初任者研修講座Ⅳ Care Staff Beginner's Training lectureⅣ | | 1年 | 前期 | 別途、時間割参照 |
| 単位数 | 授業の形態 | 授業の性格 | | 履修上の制限 |
| 1単位 | 演習 | 選択 | (介護職員初任者研修ユニット必修) | 介護職員初任者研修ユニット履修者のみ履修可 |
| 当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目 | | | | |
| 特になし | | | | |
| 同時に履修しておくことが望まれる科目 | | | | |
| 介護職員初任者研修講座Ⅰ～Ⅲ、Ⅴ | | | | |
| 担当者に関する情報 | | | | |
| 氏名 | 研究室の場所 | オフィスアワー | | 電話番号・メールアドレス |
| 石川 幸子 | 福祉棟2階 | 月・火・木・金（授業時間以外） | | 授業中に指示します |
| 授業の概要 | | | | |
| 介護職員初任者研修講座Ⅳでは、環境調整と家事、食事、排泄及び終末期の介護について学ぶ。まず介護技術の根拠となる人体の構造や機能を理解したうえで、これに関連させながら、安全で的確な支援方法、利用者の状態・状況に応じた支援の留意点等を講義・演習を通して習得する。 | | | | |
| 授業の目標 | | | | |
| ①利用者の身体状況に合わせた介護、環境整備のポイントを列挙できるようにする。 ②家事支援の機能と基本原則について、説明できるようにする。 ③食事と排泄に関するからだのしくみが説明でき、安全に支援できるようにする。 ④ターミナルケアの考え方、対応のしかたや留意点、介護職の役割や多職種との連携を説明できるようにする。 | | | | |
| 授業の方法 | | | | |
| 講義で知識を学び、学内での演習を通して技術の習得を行う。学生は利用者役、介護者役を体験しながら実技を学んでいくが、単に手順を覚えることに集中するのではなく、一つ一つの介護の根拠を考えながら実践していく。また、利用者の立場から介護を受けとめ、より良い方法を考えていく機会としたい。 | | | | |
| 学習の成果（学習成果） | | | | |
| 環境調整・家事・食事・排泄・終末期の介護の意義と目的を説明でき、介護に必要な基礎的技術を習得し、利用者の気持ちを考えながら介護技術を実践することができる。 | | | | |
| 授業のスケジュールと内容 | | | | |
| 第1回目 | 環境整備① 快適な居住環境整備と介護 | | | |
| 第2回目 | 環境整備② 環境調整の技法【演習①】ベッドメイキング<課題① 第3回に提出> | | | |
| 第3回目 | 環境整備③ 環境調整の技法【演習②】シーツ交換 | | | |
| 第4回目 | 生活と家事① 家事と生活の理解 【生活環境の演習】 | | | |
| 第5回目 | 生活と家事② 家事援助に関する基礎的知識と生活支援 | | | |
| 第6回目 | 食事① 食事に関する基礎知識 | | | |

| | | |
|---|--|---|
| 第7回目 | 食事② 自立に向けた食事の介護 食事の意義と目的 食事に関する利用者のアセスメント | |
| 第8回目 | 食事③ 安全で的確な食事の支援【演習③】 <課題② 第9回に提出> | |
| 第9回目 | 排泄① 排泄に関する基礎知識 (小テスト①) | |
| 第10回目 | 排泄② 排泄の意義と目的 利用者のアセスメントと安全で的確な排泄の支援 | |
| 第11回目 | 排泄③ 安全で的確な排泄の支援 利用者の状態・状況に応じた排泄支援の実際【演習④】 おむつ交換 ポータブルトイレ<課題③ 第12回に提出> | |
| 第12回目 | 排泄④ 利用者の状態・状況に応じた排泄支援の実際【演習⑤】 ベッド上排泄 | |
| 第13回目 | 終末期の介護① 終末期に関する基礎知識 | |
| 第14回目 | 終末期の介護② 終末期ケアとは 高齢者の死に至る過程 | |
| 第15回目 | 終末期の介護③ 臨終が近づいた時の兆候と介護 基本的態度 DVD「いのちに寄り添う」視聴 | |
| 事前・事後学習 | 授業で不明であったことは、図書館などを利用して次回授業までに調べておくこと。わからない時には担当教員に質問すること。 | |
| 成績評価の方法と基準 | | |
| 評価の領域 | 割合 | 評価の基準 |
| 授業参加態度 | 10% | 評価基準Sは、授業の準備(テキスト、配布資料等)が整い、授業に集中している。ディスカッション場面では他者の話に耳を傾け、自らの意見も積極的に述べることができる。 |
| レポート | 30% | 演習時の振り返り用紙<課題①~③>で評価する。評価基準Sは、提出期限を厳守していること。自分の体験による感想のみならず、利用者側に立って自身の介護を振り返り、課題が明確に記載できていること。 |
| 調査報告書 | | |
| 小テスト | 10% | 第9回目に小テストを行い解説をする。穴埋め問題、選択問題、記述問題等 |
| 試験 | 50% | 穴埋め問題、選択問題、記述問題等 |
| 発表内容(態度含む) | | |
| その他 | | |
| 教科書と参考図書 | | |
| ①介護職員初任者研修テキスト/中央法規(介護初任者研修講座Iと同じ) ②生活支援技術マニュアル | | |
| 履修上の留意点・ルール | | |
| ●実務経験(職種:介護福祉士、職歴:通算13年) この授業は、介護職員初任者研修修了のための必修科目である。講義・グループワークとも積極的に参加すること。欠席した場合は、必ずその部分の学習を補い届出等は速やかに提出すること。教室での飲食、机上への飲み物の放置も禁ずる。演習時は身だしなみを整える。また、自己練習をし、技術の向上に努めること。 | | |